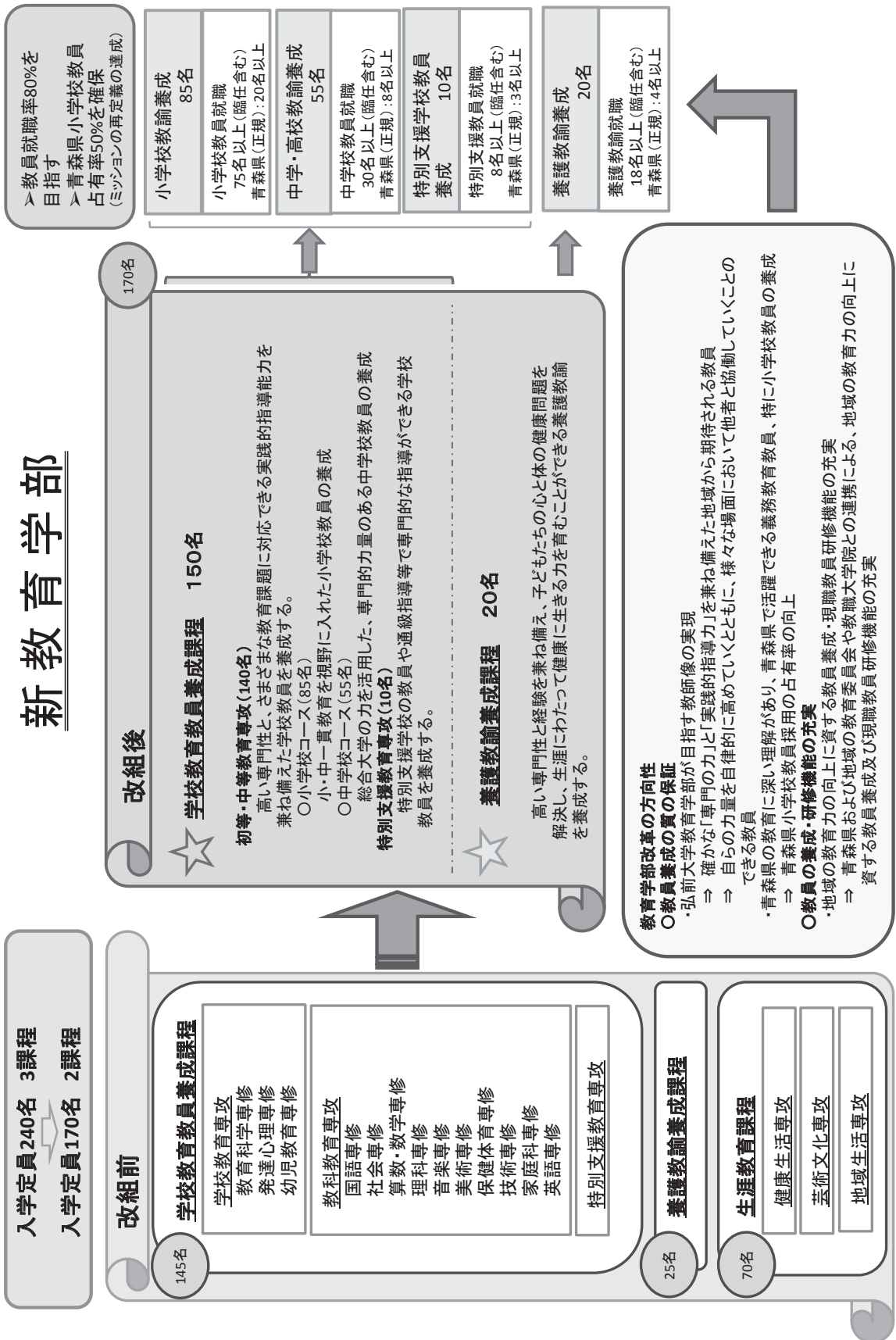


# 第2章 教育学部・大学院教育学研究科

## 資料1 2016年度の教育学部改組



資料2 教育学部のあらたな教員養成

(新)教育学部 — 地域から期待される教員（特に小学校教員）の養成 —

地域における学校教育の課題に即した教員養成

**実践的指導力**

**体系的な教育課程**

地域教育委員会・公立学校等

4年

3年

2年

1年

学習指導力  
(子どもの学習を指導できる力量)

生徒指導力  
(子どもの生活を指導できる力量)

地域課題対応能力  
(教育課題へ協働で対応できる力量)

入学定員70人減

学校教育教員養成課程 (150)

養護教諭養成課程 (20)

※ 生涯教育課程の廃止

**「地域協働型教員養成」による実践的指導力の育成**

教員としての基礎・基本を確実に修得させる体系的な教育課程による確かな学習指導力

- ・小学校教員養成の組織・カリキュラムの充実
- ・新たな授業展開能力(問題解決型授業の展開)
- ・グローバル化への対応能力(海外体験プログラムの充実)

地域社会での体験を通した生徒指導力

- ・県教委との連携(キャリアサポート実習)
- ・市町村教委との連携(地域コロナジョン実習・演習)
- ・公立学校との連携(学校サポーター・研究教育実習)

地域の教育課題に協働で対応できる能力

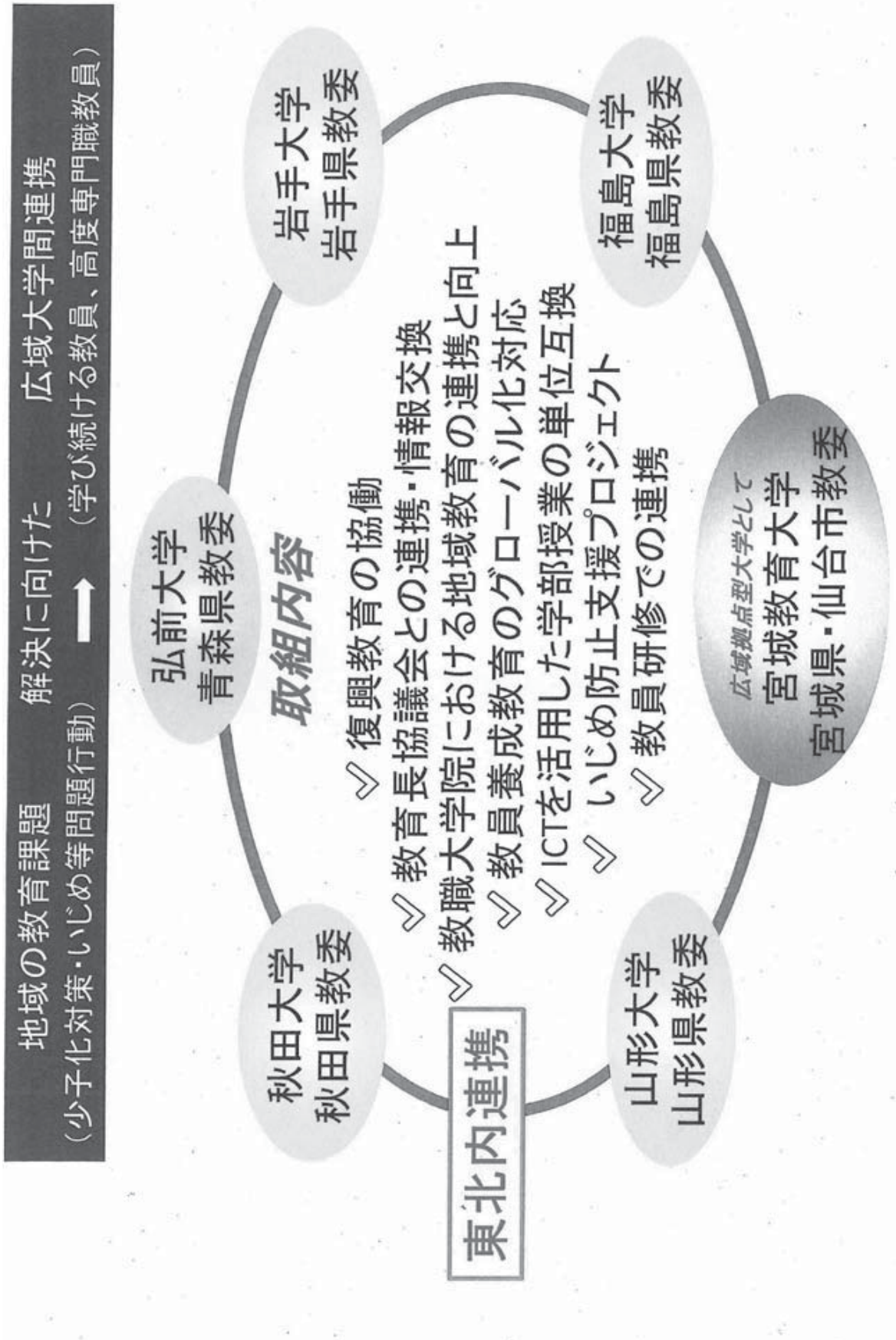
- ・青森県の抱える健康教育課題への対応能力
- ・青森県の環境教育課題(自然・資源・エネルギー等)への対応能力
- ・青森県のコミュニケーション形成に資する実践能力

### 資料3 中南地区市町村教育委員会と弘前大学教育学部・大学院医学研究科との 連携協定締結式

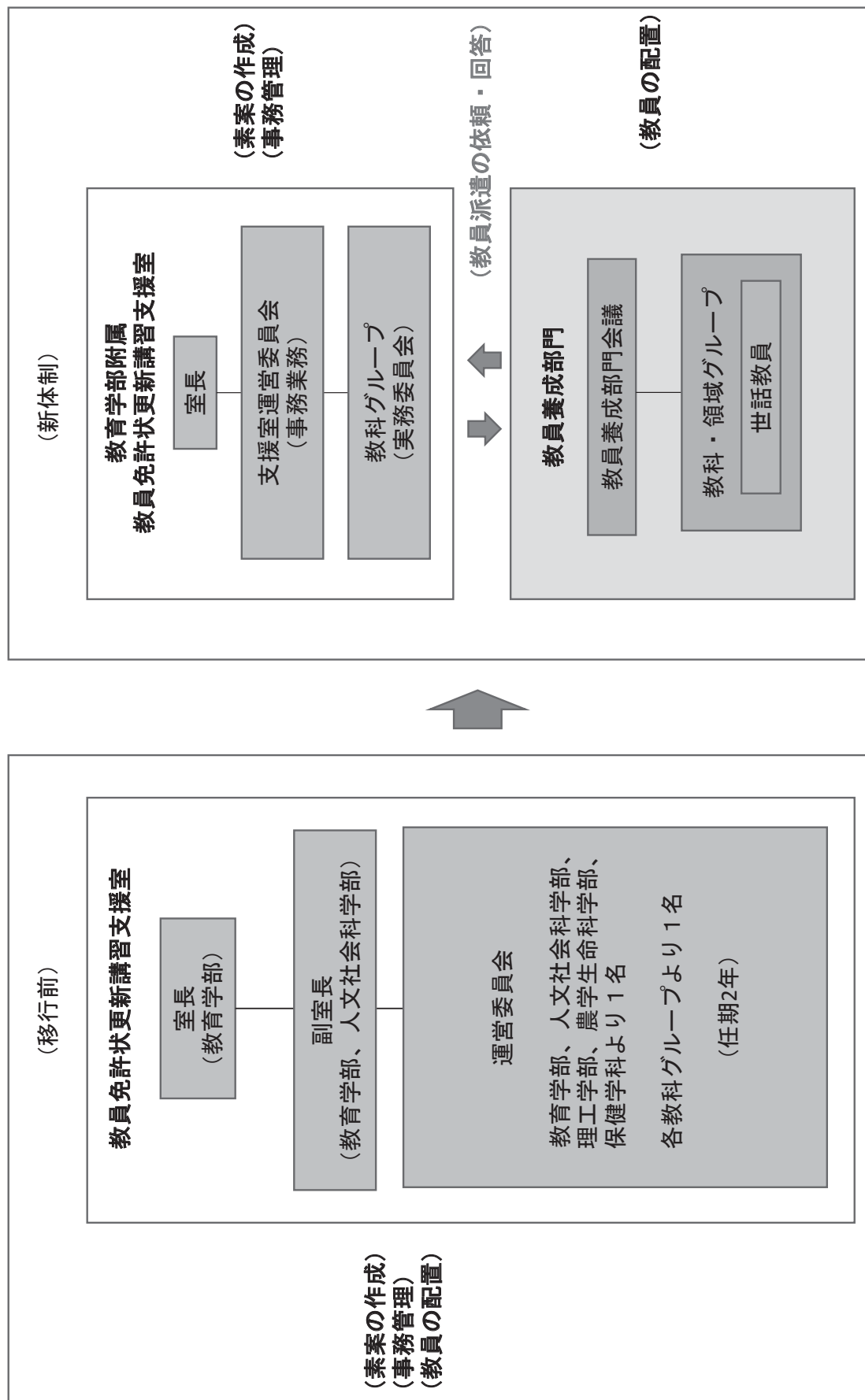


平成27年3月25日 於：弘前大学

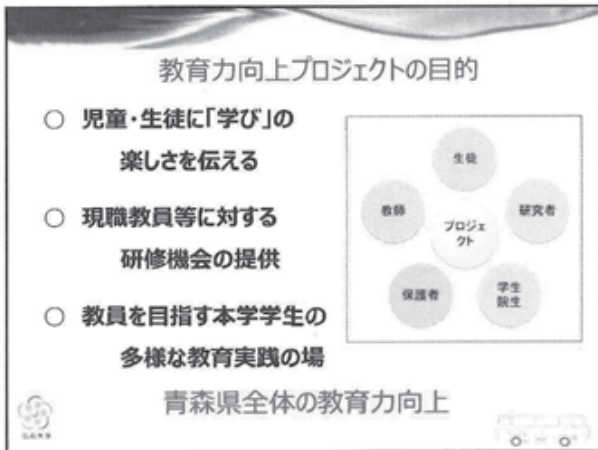
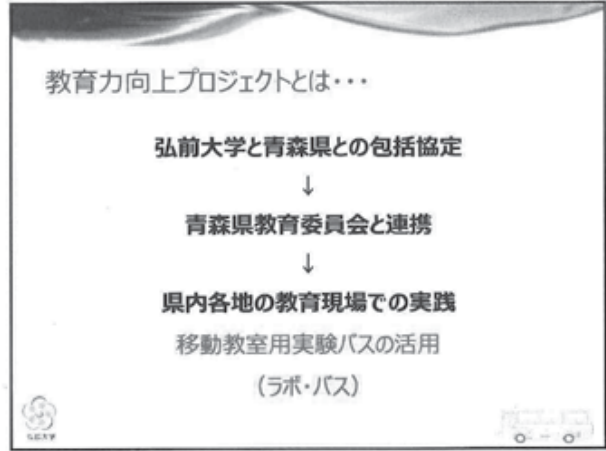
資料4 東北教職高度化プラットフォーム会議



資料5 教員免許状更新講習支援室の再編に伴う業務移行



## 資料6 教育力向上プロジェクト



- 教育力向上プロジェクトの特色
- (1) 小・中・高等学校、一般、学校教員
  - (2) 教科を理科に限定しない
  - (3) 高度な実験機器・教材の利用が可能
  - (4) 外部講師の活用
  - (5) IT利用した遠隔地での授業や研修
- 

- 教育力向上プロジェクトのテーマ(平成23年度)
- 理科(物理)実験講座
  - いろいろな成分を探りだそう
  - 合成実験をしてみよう
  - 物質の性質を調べてみよう
  - バイオエタノールを作ってみよう
  - 生物を観察してみよう
  - EDXで色々な元素を探ろう
  - 電子顕微鏡で探るミクロの世界
  - 家語今昔物語
  - レーザー加工及び樹脂成型装置を用いた3DGG教育の可能性
  - 伝統工芸と最新技術を学ぶ
  - 最新の工業デザインを試作品作成の過程から学ぶ
  - 芸術表現と書道の科学に関する教育力向上プログラム～グラスハープの演奏と音に関する実験学習～
  - スポーツ科学の基礎「体を探り、測る」
  - サッカーのインサイドキック・インステップキックの正しいフォームとその指導について
  - ネット・ケータイと情報モラル・サイトの探索と構築
  - コンピュータ制御機器・生産システムの学習
  - 鉄多利用したナイフづくりにより刃物の利便と安全の学習
  - タイムエイド製作教室
  - 模擬裁判員裁判体験による法教育入門
  - 小学校における簡単なCG作成法と最新造型方法の授業実践
  - 児童自立支援事業への参画による少年法、児童福祉実地学習
  - 青森産木材の性質を活かした道具づくりをとおして自然と人間の関わりを学習する
- 

48,867km

(のべ稼働回数 243回)  
(プロジェクト実施総数 363回)

# 資料7 弘前大学大学院教育研究科教職実践専攻【教職大学院】

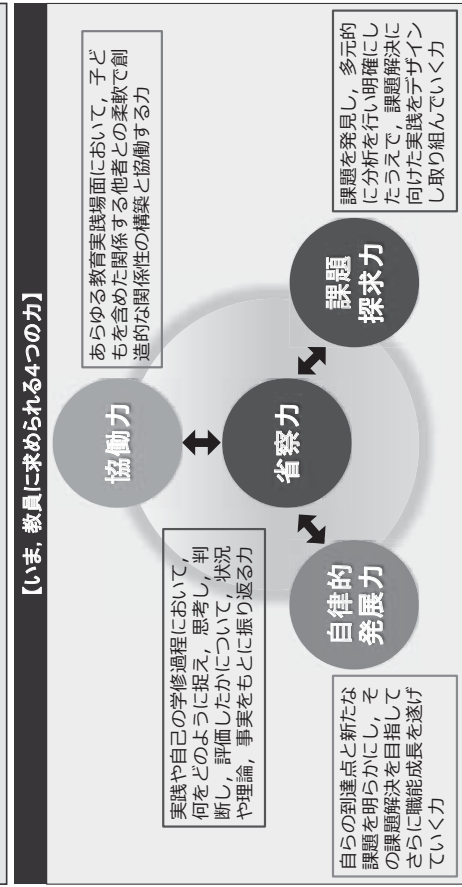
**設置の目的**  
青森県が直面している教育課題に対して、理論と実践との往還・融合を通じた省察をもとに、学校内外の専門家と協働しながら、その解決に向けた教育実践を創造しリードしていく教員を養成する。

**専攻の概要**

- 課程：専門職学位課程
- 学位：教職修士（専門職）
- 修業年限：2年
- 入学定員：16人（現職教員8人程度、学部卒8人程度）

**【教育現場のニーズに対応したコース設定】**

コース	対象	教員像
ミドルリーダー養成	原則として青森県教育委員会が派遣予定の公立中学校教員	校内研修、地域連携、教材開発などの課題に、他者とともに創造的に取り組むうえで中心となるミドルリーダー
教育実践開発	4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みで、教員免許取得済みもしくは3月末までに取得見込みの者の者	教育課題に対応するための理論と事実に基づいた確かな実践力・省察力を持つ若手教員



- 【4つの力を養成し教育課題を解決に導く教育課程】**
- 「基礎科目」「発展科目」「教育実践研究科目」「実習科目」からなる理論と実践の往還・融合を担保するカリキュラム編成
  - 「独自テーマ科目」として、青森県から要望のあった環境教育、健康教育の科目を開設
  - 「教育実践研究科目」「実習科目」は、理論と実践の往還・融合をより確かにするものとして関連性を持たせ、附属学校園や連携協力校、現任教などでの実習を通して教育課題の追究・解決・検証を実践的に行う
  - 学校課題や教育課題に対応できる実践力を身に付けるための学校・教育関係施設での実習
  - 教科科目については、兼任教員により全教科、校種への対応
  - 青森県総合学校教育センターにおける研修の企画運営や弘前市教育センターにおける長期研修参加等による仮説形成

**【教育成果の還元による青森県の教育力の向上】**

**教育成果の波及**

- 青森県の教育課題に対し「新しい学び」をデザインできる教員の養成・育成ができる
- 校内研修の企画担当や指導員として学校や教育委員会として活躍する人材育成ができる
- 青森県独自の教職生活全体を学び続ける教員のためのキャリアアッププログラムが提供できる

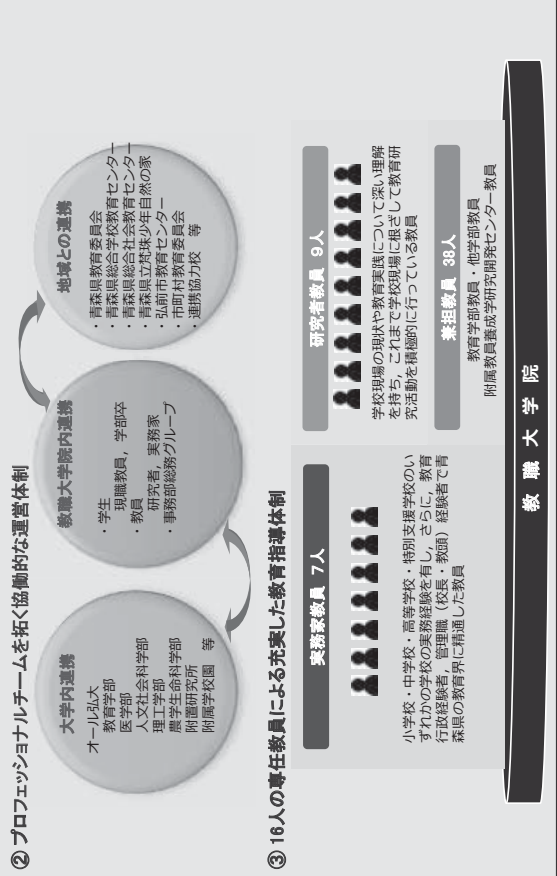
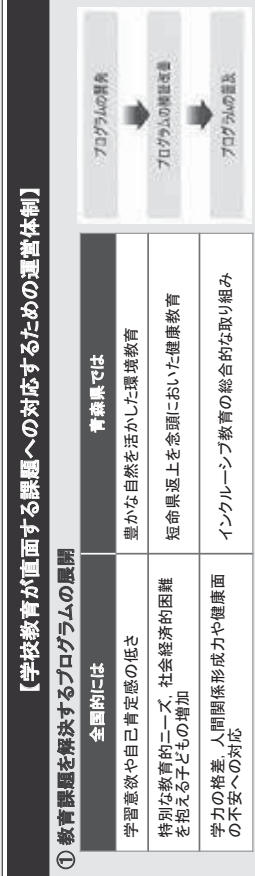
青森県の今と未来をつくる子ども達を支える教員の資質・能力の持続可能な向上

教職大学院の教育力を地域へ還元する連携協働システム

県教育委員会との連携・協働により、教職生活全体を通して職能成長の実現

- 青森県の未来をつくる子ども達を支える教員の資質・能力の持続可能な向上
- 教職大学院の教育力を現職教員の研修を通して各地域へ還元

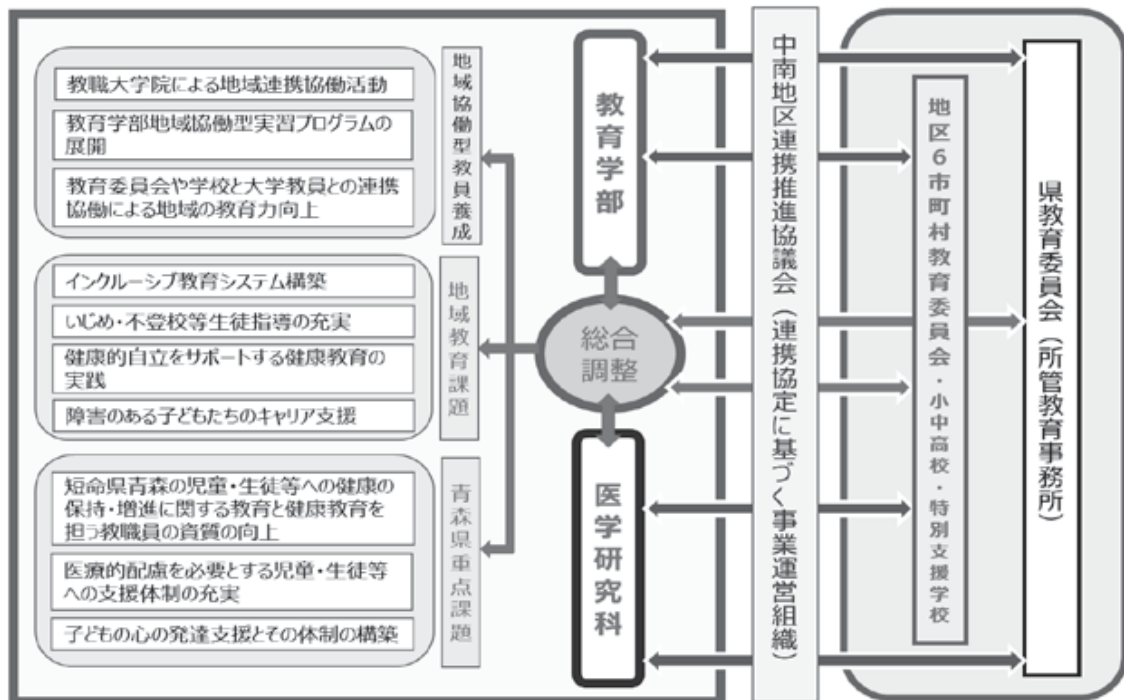
現職教員の住みかや勤務先大学院の教育力の向上  
研修への参加による青森県各地域の教育力の向上



## 資料8 地域の教育課題解決へ向けた取組

### 教育行政機関と教・医連携による地域の教育課題解決へ向けた取組

- 短命県青森の子どものための健康的自立と、地域のインクルーシブ教育システム構築を目的に、教育学部の教育的視点と医学研究科の社会医学・精神医学的視点を連携融合させ、地域の教育行政機関（青森県教育委員会及び大学近隣6市町村教育委員会）との連携協定に基づく中南地区連携推進協議会を設置し、学校だけでは解決困難な教育課題に取り組んでいる。
- 附属学校園における健康教育・インクルーシブ教育プログラム開発、地域の小・中学校における健康教育モデル実践、インクルーシブ教育教員研修会や地区懇談会、障害のある子どもたちへの早期支援活動等を教育委員会、教育学部・医学研究科および医学研究科附属子どものこころの発達研究センターがサポートしている。
- 平成27年度より展開しており、健康教育推進事業（授業公開研究会：7回、総参加者数593名）については教科横断型または連携型による体系化が進み、インクルーシブ教育推進事業（研修会：8回、総参加者数1,219名）については学校内だけではなく学校と地域を結んだネットワークの構築に進展している。



教育行政機関と教・医連携による地域の教育課題解決に向けた連携協働体系図



この取組は、各国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する特色ある好事例や先進的な取組である「グッドプラクティス」の39の事例の1つとして、文部科学省により選定されました。

平成29年11月21日（火）開催  
健康教育小学校公開研究会  
会場：黒石市立黒石小学校



## 資料9 附属学校園「ぴあルーム」(学習支援室)

### 附属学校園

# 「ぴあルーム」(学習支援室)



～学園町三校園の子どもたちをサポートします～

[どこにあるの?] 附属小学校 実習棟2階 (校長室向かい)  
※教育相談は面談室でも行います

\* [利用できる人] 附属幼稚園 附属小学校 附属中学校の  
\* 幼児児童生徒とその保護者

\* [スタッフ] 主任は特別支援学校の教員が専任であたり、支援員(1名)  
とともに教室・保育室やぴあルームで支援を行います。

### 「困り感」に寄り添ったきめ支援をめざして

・保護者との教育相談を常時行います  
子どもの発達や困り感の悩みだけでなく広く子育てについても

・巡回支援等で子どもたちの困り感を見取ります  
教室での様子の観察 子どもからの相談

・どのような支援が必要なのかを考えます  
必要に応じて学級担任や大学、関係機関と連携しながら支援のありかたをさがります

・保護者と相談の上、子どもの状況に応じた支援を行います。  
通常の授業・保育における支援 個別の指導・支援 関係機関を利用しての支援など

担当者より。

パーフェクトな子育てなんてないと思います。保護者の皆様と一緒に悩み、一緒にその子に合った方法を考えていきたいと思っています。どんな悩みでもかまいません。お子さんと保護者の皆様が少しでも笑顔が増えるよう頑張りますので、一緒に考えさせてください！

ご相談がある場合は今まで通り学級担任や各校のコーディネーター(幼稚園＝副園長 小中学校＝教頭)にお声がけするか、下記まで連絡してください。

TEL 0172-26-8373(直通)

Email n-nabe@hirosaki-u.ac.jp piaroom@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学教育学部 附属学校園

## 資料 10 教職支援室

### 教職支援室

「教師になる」を支援します。



通常は9時半開室  
10時20分から17時半まで活動



教育学部では、教師を目指す学生のために「教職支援室」が設置されています。教職支援室では、4人の「気持ちの若い」パワフル(?)な元小・中学校長経験者が、教職キャリア支援コーディネーターとして待ちかまえています。教職に関わるあらゆることや教員採用試験に向けてのオールラウンドな具体的助言や対話を重ねています。①小論文・願書の添削、②自己PR文の添削、③個人面接・集団面接、④集団討論、⑤模擬授業、⑥場面指導、⑦進路相談などに対応し、教育論や人生論も含め、共に考え、経験を伝えています。

例年多くの学生が活用を訪れ、今、大学の最もホットな場所のひとつになっています。たくさんの学生が「教師になりたい」から「教師になる」と決意を新たに、教職の大空に飛び立つスポットでもあります。



出典：『弘前大学 2019 教育学部』